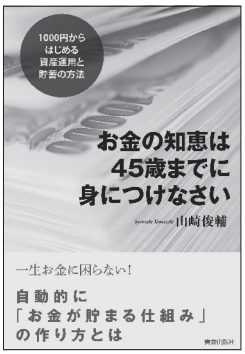

お金の知恵は45歳までに身につけなさい

山崎俊輔 著

青春出版社
（2012年4月25日）
四六判／定価1,300円（税込）
240ページ

評者
フィデリティ退職・投資教育研究所 所長
野尻哲史

「格差はあなたの20年後に確定し、固定される」。本書におけるこの警鐘は我々に重くのしかかる。

国立社会保障・人口問題研究所の最新推計によると、20年後の2032年、日本の総人口は1億1000万人台にまで減少し、そのうち65歳以上人口は33％を占めることになる。40年後の2052年はさらに事態が進んで、総人口は9000万人台、65歳以上人口の割合は39％台に到達する。

2032年はちょうど、本書のタイトルにある45歳が65歳になる年、そして52年は現在の20代が60代になる年だ。高齢者が3割、4割を占める時代を現役世代が支え続けることは難しく、その時代に退職を迎える今の現役世代が厳しい生活を強いられることは避けられない。そのなかで、お金の重要性は一段と高まることになる。

著者はこうした厳然たる現実をしっかりと把握したうえで、本書で「国の年金制度は、今の制度でもらえることを前提に自分の老後資産計画に組み入れ、複数の柱の一つとして利用する感覚を持てばいい」と明確な距離感を提示、老後資産形成には自分で取り組むべきとまとめている。もちろん、著者も言及するとおり、「お金がすべて」ではないが、「豊かさはお金の問題」という指摘も無視できない。自分が「支えられる年齢」に達していかに幸せに生きていくか、ここには「お金の知恵」が不可欠になってくる。

本書の特徴は、こうした厳しい現実を踏まえているにもかかわらず、その「お金の知恵」を肩肘張らず平易な言葉でわかりやすく伝えている点だろう。例えば、「毎日の買い物は人生の資産形成を左右する！」の項では、「毎日の買い物にも工夫を凝らして手元に残るお金を増やすような取り組みは人生における資産形成の力の源泉です」と説明して、「買い物も運用の一部です」と訴えている。

また、「運用は『なくしてもかまわないお金でやる』というウソ」の項では、「『なくしてもかまわないお金』なんかない」、「なくしては困るからこそお金の知恵を使うべき」とも説いている。そして、「お金の知恵が詰まった『コツコツ投資術』」の項では、コツコツ投資が誰にでもできることを伝えて、「実践的なコツコツ投資のはじめ方」を紹介している。

世界一の長寿を誇る日本では、45歳はちょうど人生の折り返し地点。著者は、そうした世代に向けて、「『お金の知恵』は普通の人が幸せを見つけるための、強力な武器になるはずです」と呼びかけている。また企業にとっても、働き盛りのこの世代に対するライフプラン教育の重要性が高まっているなか、できるだけ早く、老後資産形成を意識したお金に対する向き合い方を学んでもらうことが必要となっている。

本書は、平易な文章で老後資産形成の重要性を語る有用な一冊といえる。